

(様式)

令和3年度 学校評価 学校関係者評価書

学校園名	三木市立三木東中学校
------	------------

1 学校教育目標

思いやりにあふれ 自ら判断して行動できる 生徒の育成

2 本年度の重点目標

<ul style="list-style-type: none"> ・ 自他の命や人権を大切にすることを教育を推進する。 ・ 基礎・基本の確実な定着を図る授業の工夫・改善に努める。 ・ 風通しがよく、明るく元気な職場づくりに努め学校全体の組織力を高める。 ・ 学校からの積極的な情報発信等による、学校・家庭・地域が一体となった教育を推進する。 ・ 新型コロナウイルス感染防止および教育活動への影響を最小限にとどめるための取組を推進する。
--

3 自己評価結果(達成状況)【 A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない 】

評価の観点	評価項目(取組内容)	取組(達成)の状況	評価	改善の方策
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業時数の確保 ・ 基礎学力の定着 ・ 生徒が主体的に学習に取り組むための授業改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT(タブレット)を活用した授業改善 ・ 少人数指導、同室複数指導の実施 ・ 教育機器(電子黒板等)の活用 ・ 朝の読書、モジュール学習の実施(読書活動とタブレットドリル) ・ 学習タイムの導入 ・ 「自主学習ノート」の取り組み 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的な授業時間数の点検 ・ 少人数授業や同室複数授業を通したきめ細やかな指導の充実 ・ タブレット(チームス・フォームス等)を活用した授業の展開 ・ モジュールではタブレットドリルを活用した「個別最適な学び」の充実 ・ 小中連携した学習ルールや規律を徹底 ・ 学習タイムの充実 ・ 生徒も教師も楽しいと感じる授業の展開 ・ 「協動的な学びの充実」
教員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科指導力の向上 ・ 生徒に寄り添った生徒指導の推進 ・ 意欲的な研修への参加促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善による授業力向上 ・ GIGAスクール構築のために教職員のICT活用(タブレットを活用した授業) ・ 講師招聘による職員研修 ・ SC、SSWによる校内研修の実施 ・ 教育センター等の研修講座への積極的な参加(オンデマンドの有効活用) 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業改善のための情報提供とICT機器の積極的活用(タブレットを活用した授業展開) ・ 講師を招聘した校内研修の充実や専門講座の積極的参加 ・ 資質向上に向けた教職員の意識向上 ・ OJTによる若手教師の育成、技術の継承
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の内面理解に基づく生徒指導 ・ いじめや不登校の早期発見、早期対応 ・ 関係機関との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活アンケート(いじめの早期発見)の実施(6月・11月) ・ 年2回以上のカウンセリングウィーク実施(6月・11月) ・ 生徒指導委員会、不登校委員会の定例開催による情報の共有と改善策 ・ 関係機関(適応教室、子育て支援課、子ども家庭センター、警察等)との連携 ・ 情報モラル、薬物乱用防止教室の実施(au講師招聘、三木警察講師招聘) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭環境を含む生徒理解の深化 ・ 発達障害、LGBTに関する研修の充実 ・ SCやSSWを活用した教育相談の充実 ・ SSWやSCを活用した専門機関との連携強化 ・ 共通実践のための情報の共有化 ・ 家庭、地域と連携した生徒への支援

4 自己評価方法の適切さについての学校関係者評価

<p>評価は適正である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相対的に学校と保護者、地域としっかり連携しながら学校運営ができていていると感じる。子どもたちの学校に対する満足度が大きく、安心して学校生活を送れていると思われる。しかし、コロナ感染症による学校生活の制限が、子どもたちの成長への影響はまだ大であると思われるので、少しでもこのびのびと学校生活を送れるよう、今後も期待したい。 ・ 評価方法はおおむね適切と思われるが、すべての項目においてかなり厳しく評価されているように思われる。 ・ 教職員の並々ならぬ努力があったと思うが、その分、生徒たちが楽しく学校生活を送ることができていたように感じる。 ・ 目標達成に向けて昨年度に引き続き工夫し、成果が表れている。「風通しの良い職場づくり」として、お互いの意見を素直に言い合い、受け取れるような場づくりを今後も期待する。 <p>自己評価の適切さについては、様々な制限のある中で、やや厳しめの自己評価をされていると感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ すべての評価項目に当てはまるが、昨年度から続く新型コロナによる学校運営への影響が大きいと思われる。 ・ 保護者が来校する機会が減少し、「開かれた学校」という点で学校が苦慮する中、最善策を模索されているように感じた。保護者は学校との接点が少なくなり、大きな行事への参観・参加もないため、これらの再開が望まれる。 ・ 重点目標にある通り、感染防止及び教育活動への影響を最小限にとどめようとする取り組み状況は、十分評価に値する。 ・ 生徒も保護者も、当たり前の有難さを実感する2年間でした。たくさんの行事も含めて、生徒たちの「心の財産」を何とか確保できることを期待する。 ・ コロナ禍の中での行事のあり方や取組についても、その場での判断や検討課題が多々あった中で工夫し、改善実行されていると思う。 ・ 学校評価のためのアンケートでは、コロナ禍より、生徒・保護者・教職員のそれぞれで従来の価値観の変化が数字から読み取れます。中でも生徒たちの目線に立って学校行事が実施されたことは高評価です。来年度に向けて、積み残し案件や新たな考え方を取り入れた教育に期待する。
--

5 評価の観点ごとの学校関係者評価

学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価
<p>評価は適正である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ タブレットを活用した授業では、ベテランの先生方は頻繁に活用しないが、若手の先生方は積極的に活用し、子どもたちがわかりやすいように授業を進めている。朝の読書タイムも継続的に続けられ評価も得られている。 ・ ICTや電子黒板等を活用した授業については、生徒たちも教職員も技術格差があるように感じる。今後の課題として、若手とベテラン教員とのスキル共有が大切になってくると思われる。 ・ 先生方の時間確保が大変だと思うが、知る喜びや学びに向かう力を育てるため、効果的な活用方法を実践してほしい。 <p>かなり評価が厳しく、A評価が妥当である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ タブレットを活用した授業の展開も意欲的である。 ・ 今まで積み重ねてきた学習指導を確実に深めてほしい。 ・ 生徒も教師も楽しいと感じる授業の展開をこれからもお願いします。 ・ ICTを用いた利用率も市内No1は誇れる取組の結果であり、授業数の確保や基礎学力の向上に寄与できた。今後も、ICT機器を取り入れた教育プログラムの向上や生徒目線での取組に期待する。
<p>評価は適正である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員の年齢層が若くなり、熱血に子どもたちに関わっているところが見受けられ、教員と生徒の関係が良好であると感じる。 ・ 管理職の目指している風通しの良い職場づくりの様子が生徒や教員に伝わり、良い雰囲気を作っていると感じる。 ・ 若い教員が多くなっている状況なので、ICTを積極的に用いた授業を行っていくこと自体は、難しくないと思われるが、生徒に寄り添った指導という部分では、管理職をはじめ、ベテラン教員によるOJTを実施し、技術の継承を進めてほしい。 ・ ICTを活用した授業改善など、教師にとっても慣れないものを教えたり、新しい教材を取り入れたりと変化を求められるが、教師を支える仕組みづくりが不可欠だと感じる。 ・ 年齢的に若い先生方が多く、エネルギーが学校内に感じる。
<p>評価は適正である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校としていじめ撲滅に向け、小さなことでもすぐに対応し、人権の大切さをしっかり子どもたちに学ばせ、意識を持った取り組みができていている。 ・ 生活アンケートやカウンセリングの実施により、いじめの早期発見や抑制効果が出ていて評価できる。 ・ 不登校生徒については対応されているものの不登校理由が特定できるものではないので、今後も引き続き、関係機関と連携して対応してほしい。 ・ 生徒は全体的に落ち着いて生活している。 ・ いじめや暴力の無い学校にしようと一生懸命取り組んでいる。小さいいじめの段階からの対応を心掛け、実践されている。社会情勢も大きく変化する中、教育現場の改善には、社会全体が次世代の教育に予算をかけるという考えにシフトしないと、現場の教師の努力だけでは限界がある。現状、限られた人的資源・物的資源・予算で、何とか凌いでいるという状況に感じる。 ・ 人権教育として、LGBTの考え方が進化(深化)していく中で、多種多様な考え方の教育に期待する。コロナ禍による生徒たちの心の問題や、情報モラルが多角化していく中で、SCやSSW、外部の関係機関を通じて相談する場をより充実し対応できる体制を組んでいただきたい。 ・ 8割以上の生徒が、「先生は自分のことを理解してくれている。」と感じている点は、先生方の情報共有がきちんとできているからだと思われる。それがあって、さらに生徒同士のかかわりに大いにプラスになると期待される。

<p>道徳・人権教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育の充実 ・人権教育の推進 ・自尊感情や自己有用感の高揚 	<ul style="list-style-type: none"> ・ローテーション道徳の実施 ・授業と評価の一体化 ・人権作文、ポスター制作や人権作文発表会の取組 ・外部講師による人権教育の推進(脳卒中者友の会講師招聘) ・情報モラル教育の推進 (au講師招聘) 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講師招聘による人権教育の充実 ・読み物教材の発掘 ・道徳教育副読本を媒介とした家庭での話合いの継続(夏季休業中の課題) ・情報モラル教育の推進 ・体験活動やボランティア活動を通じての所属感、自尊感情の醸成 	<p>評価は適正である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域との活動を通じてボランティア活動がもっとできればよいが、コロナ感染対策のため、今年もできていないが、学校の中で工夫し、それに代わる体験ができればと思う。 ・いつの時代にも人権学習においては、作文やポスターといった形になるものが求められ、子どもたちに本当の「人権」とは何か伝わっていない気がする。情報化社会となった今、SNS等、あらゆる所で人権侵害が起きている現状をもっと保護者とともに考えたり、子どもたちと保護者の意見交換できる場があってもよいのではないかと考える。 ・年々多種多様な考え方が増えていく中で、従来の考え方からさらに広い視野を持った教育に期待する。総合の授業を活用して、既存の道徳の授業とは別に、海外の取組等の研究を行ってみてもよいかと思われる。 <p>評価が厳しいと思われる面もあるが、概ね妥当である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従来からの取り組みを継続して、今後も道徳教育の充実を図ってほしい。 ・外部講師による人権教育や情報モラル教育にも意欲的だと思われる。
<p>保健・安全</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染予防対策の推進 ・安全教育の充実 ・保健・安全意識の向上 ・防災教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染予防の環境整備と手洗いや換気などの予防対策徹底 ・交通ルール・マナーの注意喚起・啓発(自転車教室等の開催) ・下校指導、交通立ち番(P T Aと連携)の実施 ・薬物乱用防止講演会の実施(三木警察生活安全課から講師招聘) ・学校保健委員会の実施 ・地震、火災避難訓練、1.17追悼集会の実施 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・交通ルール、マナーの徹底 ・下校指導、交通立ち番の実施 ・外部講師による専門的な立場からの指導 ・生活に直結する保健安全に関する情報提供 ・災害発生時に対する防災訓練の実施 	<p>評価は適正である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車通学などの安全教室や下校指導、コロナ感染対策など、子どもたちの安全で安心な学校生活を送れるよう指導していただいているので、生徒たちの意識が毎年高まっている。 ・コロナ対策においては、生徒たちが制限される中での行事の大切さを感じ、自主的に感染予防に努めている姿が見受けられてよかったと思う。ただ、時間の経過とともに、人の意識も薄れることは当然なので、手洗いや消毒、換気は今後ももしっかり徹底していただきたい。 ・交通安全については、依然危険な交差点があり、先生方の立ち番やPTA役員の立ち番の重要性が高まっている。さらなる安全活動に期待する。 ・防災については、「災害は忘れた頃にやってくる」を意識して防災・減災の教育に期待する。 <p>評価が厳しいと思われる面もあるが、概ね妥当である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染予防の環境整備について、必要な対応を確実に実施されている。 ・自転車教室等の開催を通じて、交通ルール、マナーの徹底が図られている。 ・学校で発生した事故・けが等の対応について、ベテランから若手の先生へ、経験が継承できるように今後も配慮してほしい。
<p>進路指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学年に応じた進路指導 ・キャリア教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路説明会の実施(7月・11月) ・進路相談の充実 ・私学合同説明会への参加促進 ・トライやるウィーク発表会の実施 ・キャリア教育のため企業から講師招聘「(株)基陽」 ・ものづくり体験学習(1年生) 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・系統的な進路指導計画の見直し ・体験活動と連動したキャリアノート活用促進 ・体験活動の充実 ・キャリア教育のため企業から講師招聘 	<p>評価は適正である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導などでは、高校の先生に来ていただき高校説明会を開くなど、生徒に積極的に進路について考えさせることができている。 ・トライやる・ウィークを終えた生徒には、成長した姿が見られた。 ・進路指導のアンケートでは、昨年より生徒の満足度がアップしており、生徒への指導もしっかりできている証しだと感じる。 <p>評価が厳しいと思われるが、概ね妥当である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年に続き短期間でトライやる・ウィークとなったが、進路を決めていく上で、社会体験をさせることで、少しでも自分の将来の方向性を持たせてあげることができると思うので、できる限りの時間を作って、実施してほしい。 ・キャリア教育のため、企業から講師招聘など、生徒が自分の将来を考えるきっかけづくりとなっている。
<p>特別支援教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を要する生徒の理解と支援の充実 ・家庭、関係機関との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を要する生徒の共通理解と効果的な支援のための研修の実施 ・個別の支援計画の作成 ・関係機関との連携の推進 ・特別支援教育指導補助員の配置 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を要する生徒の共通理解 ・個人カルテの作成 ・特別支援教育に係る専門性の向上 ・特別支援教育指導補助員と連携した支援 	<p>評価は適正である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校生徒が増える中、個々に応じた別室授業を実施し、管理職、授業の空いている教員が交代で入り、生徒に応じた対応ができている。今後の課題として教員の人員不足が挙げられる。 ・特別な支援を必要とする生徒に対する支援には、該当する人数が増えればその分、人材・もの・予算が必要となってくるが、行政とも連携を取り、PTAとも連携を取りながらやっていく必要がある。 ・教職員の経験・ノウハウが問われる難しい分野であり、特別支援教育に係る専門性の向上が必要である。ベテランから若手教師へ、知識・技術・経験の伝達ができるよう今後も配慮をお願いします。
<p>特別活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会執行部と管理職の意見交換会の開催 ・学級経営の充実 ・学校行事の充実 ・生徒会活動の活性化 ・部活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動の活性化 ・生徒会を中心とした学校行事の充実 ・生徒会委員会活動の充実(管理職との年2回以上の座談会実施) ・ノ一部活デー完全実施によるメリハリある部活動運営 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会による学校づくりへの主体的な取組 ・生徒会を中心とした主体的な行事運営 ・学校行事を通した達成感の醸成 ・進んで練習に参加しようとする部活動運営 	<p>評価は適正である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒主体で学校行事を作り上げ、運営もすべて生徒が行い、国庫の主体性を重視した学校教育ができている。そのため、学校の雰囲気がとても良い感じに運営できている。 <p>かなり評価が厳しく、A評価が妥当である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動においては、行政からの指導に基づき、保護者の感染等の制限はあったものの、大会等ではできる限り行い、生徒たちが練習する意欲も出せていたように思われる。 ・部活動については、多くの教職員が熱心に指導に当たっていることに感謝します。 ・生徒会役員と管理職との座談会は、学校づくりへの主体的な取組として評価する。 ・生徒が企画段階から携わることで、先生たちがやってきた段取りの大変さを少しでも理解するきっかけになっていると思う。また、自分たちも参加している意識が一層強くなると思う。
<p>施設・設備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・施設、設備の充実 ・美化活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化設備や損傷箇所の修繕 ・P T A 予算による備品等の購入 ・P T A 環境整備部による花壇整備 ・教師と生徒と同行の清掃活動 ・生徒会活動による施設整備(美化コンクール等) 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市教委と連携した施設設備への対応(老朽化設備や損傷箇所の迅速な修繕) ・美化活動やボランティア活動の推進 	<p>評価は適正である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校とPTAがしっかりと連携が取れており、必要なものを検討し、市や県の予算で購入できないものをPTAで購入し、子どもたちの快適な学校生活を守ることができている。 ・今年度も親子での愛校作業が実施できなかったため、生徒たちの愛校精神を養わせるために、来年度はできるだけ方法を考えて実施してほしい。 ・校舎の老朽化は30年以上経過し、損傷箇所も出てくる中、PTAと連携し、状況に応じた環境整備に取り組んでいる。 ・市教委と連携した施設設備への対応を今後も継続してほしい。 ・PTA環境整備部による花壇整備も、良い校風につながっている。 <p>評価Bは過小評価であるがAに近いと思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校全体の設備老朽化は否めないが、日々の清掃活動による維持はよくできていると思われる。外部からの評価も高いことやきれいな状態を保つことは、生徒たちの心や生活態度にも直結することから、維持継続することさらなる向上に期待する。
<p>家庭・地域との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・開かれた学校づくり ・保護者、地域との連携による生徒の健全育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・HPの積極的更新による情報発信 ・学級、学年、学校通信の発行 ・オープンスクールの充実(オープンスクールウィーク年2週間) 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の情報発信を推進(HP、各種通信) ・地域、家庭からの情報収集 ・オープンスクールや学校行事の開催方法 ・中央公民館行事の運営への生徒の参加 	<p>評価は適正である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のため、保護者参観の機会が減った中でも、感染状況を鑑み、合間を縫って、オープンスクール開催することができたことはよかった。まだ続く感染対策の中で、オンラインでのオープンスクールなどの学校行事を開催するような工夫も必要かと考える。 ・中央公民館行事の「ふれっぴー三木」は積極的に参加していただき、地域の方々とのつながりを大切にしてほしい。 ・活動制限がある中で、実施可能なことから地道に行ってほしい。取り組みの成果も大切だが、その過程においても生徒たちに多くの学びがあると思う。 ・大きな行事を参観できないため先生と生徒の関係性を知ることができず、残念である。授業参観ではわからない部分である。 ・学校内の様子を知るうえで、ホームページの情報も重要であることに間違いのないので、これからも積極的な情報発信に期待する。 ・PTA活動では、会員の方が活動自体を目にする機会が少ないだけに、小さな出来事でも情報発信することで、役員の方々のモチベーションアップにもつながると考える。 ・保護者が担任、顧問以外の顔と名前が一致していない。知らないということが多くあるようなので、家庭での親子関係も関わっているかもしれないが、関心が持てる、増えていくよう情報発信が必要だと感じる。 ・三木東中といえば〇〇という今後継続した活動があればよいと思う。それがいずれ地域の方を巻き込んでいくこともよいと思う。